

千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書

千葉市（以下「甲」という。）と千葉YMCA・伊藤忠UCグループ（以下「乙」という。）とは、甲の設置する公の施設である千葉市少年自然の家の管理に関し次のとおり協定を締結する。

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この協定は、千葉市少年自然の家設置管理条例（平成16年千葉市条例第42号。以下「設置管理条例」という。）第19条第4項の規定により地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）に指定された乙が行う千葉市少年自然の家（以下「管理施設」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（協定の意義）

第2条 この協定において乙が遵守すべき事項として定められたものは、設置管理条例第20条の「市長の定めるところ」として位置づけられるものとする。

（定義）

第3条 この協定において次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- （1）指定期間 乙に管理施設の管理を行わせる期間として甲が定めたものをいう。
- （2）関係法令等 地方自治法、消防法（昭和23年法律第186号）、労働基準法（昭和22年法律第49号）、最低賃金法（昭和34年法律第137号）その他の乙が行う管理の業務（以下「管理業務」という。）に関係する法令、設置管理条例その他の条例及び条例に基づく規則その他の規程をいう。
- （3）募集関係図書 甲が管理施設の指定管理者の公募に際して公表し、又は配布した募集要項その他の書類（この協定書の案を除く。）の一切をいう。
- （4）管理運営の基準 募集関係図書のうち千葉市少年自然の家指定管理者管理運営の基準をいう。
- （5）提案書類 乙が管理施設の指定管理者の公募手続において甲に提出した千葉市少年自然の家指定管理者指定申請書及びその添付書類その他の一切の申請書類並びにこの協定の締結までの間に乙が甲に提出した一切の書類をいう。
- （6）自主事業 乙が管理施設を利用して、自らの企画による事業を実施し、又は第三者にこれを行わせて、当該事業に係る利用者等又は当該第三者から利用料金その他の料金を徴収し、自己の収入とする場合の当該事業をいう。
- （7）保有文書 乙の役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものの代表者又は管理人を含む。以下同じ。）又は従業員が管理施設の管理に関して作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）であって、乙の役員又は従業員が組織的に用いるものとして乙が保有しているもの（新聞、雑誌、書籍その他不特定多数の者に販売することを目的として発行されるものを除く。）をいう。
- （8）市の休日 千葉市の休日を定める条例（平成元年千葉市条例第1号）第1条第1項に規定する市の休日をいう。
- （9）指定管理料 管理業務（自主事業の実施に関する業務及びこれに付帯する業務を除く。）の遂行の対価をいう。
- （10）不可抗力 甲及び乙のいずれの責めにも帰することができない暴風、豪雨、落雷、洪水、

地震、地滑り、落盤、火災、騒乱、暴動、戦争、第三者による不法行為その他自然的又は人為的な現象で通常の予測を超えるもの及びこれらの影響によって生じた交通手段の断絶、公共インフラの遮断等の事態が継続した状態をいう。

(11) 法令の変更 法令（条例及び条例に基づく規則を含む。）の制定及び改廃をいう。

（適用関係）

第4条 甲及び乙は、募集関係図書及び提案書類に記載された事項がこの協定の一部を構成するものとし、甲及び乙を拘束することを確認する。ただし、この協定に特別の定めがある場合を除き、募集関係図書と提案書類の内容が矛盾抵触する場合には、募集関係図書が優先して適用されるものとし、この協定の規定と募集関係図書又は提案書類の内容が矛盾抵触する場合には、この協定の規定が優先して適用されるものとする。

（管理施設）

第5条 管理施設は、別記第1に定めるとおりとする。

（指定期間）

第6条 指定期間は、令和2年4月1日から令和7年3月31日までであることを確認する。

第2章 管理業務の範囲、管理の基準等

（管理業務の範囲及び実施条件）

第7条 管理業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 設置管理条例第4条第1号に規定する管理施設の事業に関する業務
- (2) 設置管理条例第4条第2号に規定する管理施設の使用の許可に関する業務及び同条第1号に規定する使用の制限等に関する業務（以下「使用許可業務」と総称する。）
- (3) 設置管理条例第4条第3号に規定する管理施設の維持管理に関する業務（以下「維持管理業務」という。）
- (4) 自主事業の実施に関する業務
- (5) 前3号に掲げる業務に付帯する業務

2 管理業務の細目及び乙が管理業務を実施するに当たって満たさなければならない条件は、この協定に定めるもののほか、管理運営の基準又は提案書類に記載された条件の水準が管理運営の基準に定める条件の水準を上回る場合における当該上回る部分（以下「管理運営の基準等」という。）に定めるとおりとする。

（関係法令等の遵守）

第8条 乙は、関係法令等に従って、管理業務を実施しなければならない。

（秘密の保持）

第9条 乙は、乙の役員若しくは管理業務に従事する従業員又はこれらの者であった者が、管理業務に関し知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用しないよう必要な措置を講じなければならない。

2 乙は、管理業務の一部を第三者に請け負わせ、又は委任し、若しくは委託する場合には、当該第三者に対しても前項に規定する秘密の保持に関する措置を義務づけるものとする。

（個人情報の保護）

第10条 乙は、管理業務に関して保有する個人情報について、千葉市指定管理者等個人情報保護規程（以下この条において「個人情報保護規程」という。）及び千葉市指定管理者等及び出資等法人個人情報保護事務処理要領（以下この条において「個人情報保護事務処理要領」とい

う。)並びに別記「指定管理者個人情報取扱特記事項」(以下この条において「個人情報取扱特記事項」という。)の規定に従い、次に掲げる措置を講ずるものとする。

- (1) 個人情報を適切に取り扱うこと。
- (2) 個人情報の開示、訂正及び利用停止の申出を受けて決定等を行うこと。
- (3) 前号の決定等に対する異議申出を受けて再決定をすること。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、個人情報保護規程及び個人情報保護事務処理要領並びに個人情報取扱特記事項において指定管理者が行うべきものとされていること。

(暴力団の排除)

第11条 乙は、千葉県暴力団排除条例(平成24年千葉県条例第36号。以下「暴力団排除条例」という。)第3条に規定する暴力団(暴力団排除条例第2条第1項に規定する暴力団をいう。以下同じ。)の排除についての基本理念にのっとり、次に掲げる措置を講じなければならない。

- (1) 管理業務に関し、暴力団の排除に取り組むとともに、甲が実施する暴力団の排除に関する施策に協力すること。
- (2) 管理業務の遂行に当たり、暴力団又は暴力団員等(暴力団排除条例第2条第3号に規定する暴力団員等をいう。以下同じ。)による不当な要求があった場合には、遅滞なく甲に報告するとともに、所轄の警察署に届け出ること。
- (3) 管理業務に関し、暴力団の排除に資すると認められる事情を知ったときは、甲に対し、当該情報を提供すること。

(情報の公開)

第12条 乙は、管理業務に関して保有する情報の公開について、千葉県〇〇センター指定管理者情報公開規程準則及び千葉県〇〇センター指定管理者情報公開事務処理要領準則の規定の例により自ら情報の公開に関する規程を作成して、次に掲げる措置を講ずるものとする。

- (1) 開示の申出を受けて保有文書を開示すること。
- (2) 保有文書の開示決定等に対する異議申出を受けて再決定をすること。
- (3) 保有文書を適正に管理すること。
- (4) 情報提供施策を充実すること。

(文書管理規程の作成)

第13条 乙は、保有文書を適正に管理するため、指定期間の初日までに、保有文書の文書管理規程(保有文書の分類、作成、保存、廃棄及び引継ぎに関する基準その他の保有文書の管理に関して必要な事項を定める規程をいう。以下同じ。)を作成して、甲の確認を受けなければならない。この場合において、管理業務の経理に関する保有文書については、事業年度終了後5年を下回らない期間保存することとしなければならない。

(善管注意義務)

- 第14条 乙は、善良な管理者の注意をもって、管理業務を実施しなければならない。
- 2 乙は、管理業務の実施に当たって、自己の責めに帰すべき事由により管理施設を滅失し、又はき損したときは、速やかに原状に回復しなければならない。
 - 3 前項の場合において、乙が正当な理由がなく管理施設を原状に回復しない場合は、甲は、乙に代わって管理施設を原状に回復するために必要な措置をとることができるものとする。この場合において、乙は、甲の当該措置について異議を申し出ることができないとともに、当該措置に要した費用を負担しなければならない。

(許認可等の取得等)

第15条 乙は、この協定に別段の定めがある場合を除き、管理業務の実施に必要な許認可等を、

自己の費用及び責任において取得し、及び維持しなければならない。必要な届出についても、同様とする。

(人員の確保)

- 第16条 乙は、管理業務を実施するために必要な人員を、直接雇用する方法又は第三者からの派遣若しくは出向等による方法により適法に確保して、必要な研修等を行うものとする。この場合において、当該人員に暴力団員等又は暴力団密接関係者（暴力団排除条例第9条第1項に規定する暴力団密接関係者をいう。以下同じ。）を充ててはならない。
- 2 前項前段の場合において、乙は、障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和35年法律第123号）第5条に規定する事業者の責務をより一層果たすべく、管理業務に従事する従業員の確保に当たっては、同法に規定する障害者を採用するよう努めなければならない。
 - 3 前項に規定するもののほか、乙は、管理施設が本市の公の施設であることを考慮し、管理業務に従事する従業員の確保に当たっては、本市内及び長柄町内に居住する者の採用を図るものとする。

(再委託等)

- 第17条 乙は、管理業務の全部又は大部分若しくは重要な部分を第三者に請け負わせ、又は委任し、若しくは委託してはならない。
- 2 乙は、あらかじめ文書による甲の承諾を得て、かつ、前項の規定及び関係法令等の許容する範囲内において管理業務の一部を第三者に請け負わせ、又は委任し、若しくは委託すること（以下この条において「再委託等」という。）ができる。
 - 3 乙は、暴力団、暴力団員等又は暴力団密接関係者に再委託等をしてはならない。
 - 4 乙は、再委託等については、全て乙の費用及び責任において行うものとする。
 - 5 乙は、再委託等をした管理業務に伴い再委託等の相手方について生じた事由について、甲に対し全ての責任を負うものとする。
 - 6 乙は、第2項の規定により再委託等をする場合は、募集関係図書及び提案書類の記載に従い、可能な限り本市内に本店又は主たる事務所を有する者に対して行うものとする。

(労働者の安全の確保等)

- 第18条 乙は、労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）及びその関連法令に従って、管理施設において就労する労働者の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成を推進するほか、作業行動の安全を図って、労働災害の発生を防止するものとする。

(電力等の確保等)

- 第19条 甲は、乙が管理業務を実施する上で必要な電力、用水、燃料等（以下この条において「電力等」という。）について、指定期間の初日までにその供給者と供給契約を締結する等により利用可能な状態を確保するものとする。この場合において、乙が管理業務を実施する上で必要な電力等の確保に関する甲の義務は、これに限るものとする。
- 2 乙は、管理業務の実施に当たって費消した電力等の代金を支払い、又は副資材等をその責任において調達するものとする。

(近隣への配慮等)

- 第20条 乙は、指定期間中、自己の費用及び責任において、管理業務を実施するために合理的に要求される範囲内で周辺の生活環境に配慮するものとする。

(緊急時の対応等)

- 第21条 乙は、管理施設又は管理施設の利用者等に災害又は事故があったときは、迅速かつ適切な対応を行うとともに、速やかに甲に報告して、その指示に従うものとする。

- 2 乙は、管理施設が本市において災害が発生した際に物資の備蓄箇所、救護医療スペース等の救援、復旧等の拠点としての役割を担う可能性があることを了解するとともに、災害が発生した場合においては、甲の求めるところに従い、管理施設が当該役割を果たす上で必要な一切の行為に協力するほか、平時においては、当該役割を担うための防災機能の維持その他の準備に協力するものとする。
- 3 管理施設は甲と長柄町との協定により、災害時において長柄町が避難所として利用できるとしているため、乙は、公共施設の管理運営を任されている者の責任として、甲及び長柄町とともに災害対応を行うものとする。

(付保)

- 第22条 乙は、自己の費用及び責任において管理業務に係る別記第2に定める種類及び内容の損害保険契約を締結するものとし、指定期間中、当該保険契約を維持するものとする。
- 2 乙は、指定期間の初日までに、甲に対し、前項の損害保険契約の保険証券その他その内容を証する書面の原本を提示した上で、その写しを提出しなければならない。損害保険契約を更新し、又は変更した場合も、同様とする。

第3章 事業計画及び事業報告

(事業計画)

- 第23条 乙は、毎事業年度（指定期間における最終の事業年度を除く。）の9月15日（その日が市の休日に当たるときは、その日後の市の休日でない日とする。）までに翌事業年度の管理業務に係る次に掲げる事項を記載した次年度事業計画書（様式第1号）に当該管理業務に関する収支予算見積書（様式第2号）を添付して甲に提出するものとする。
- (1) 管理業務の実施体制に関すること。
 - (2) 管理施設の維持管理に関する計画、自主事業の実施に関する計画その他管理業務の実施計画に関すること。
 - (3) 第42条第2号に規定する利用者へのアンケート調査の実施方法、質問内容等の実施計画に関すること。
 - (4) 前3号に掲げる事項のほか、甲が指定する事項。
- 2 乙は、指定期間初日の直前及び毎事業年度（指定期間における最終の事業年度を除く。）の3月20日（その日が市の休日に当たるときは、その日後の市の休日でない日とする。）までに、翌事業年度の管理業務に係る前項各号に掲げる事項を記載した事業計画書（様式第3号）に当該管理業務に係る収支予算書（様式第4号）を添付して甲に提出して、その承認を得るものとする。
 - 3 前項の事業計画書は、指定期間前に甲に提出する場合を除き、第1項の次年度事業計画書の内容を踏まえて記載するものとする。
 - 4 次年度事業計画書及び事業計画書は、提案書類に記載された内容及び管理業務基本計画（別記第3）に規定する内容を踏まえ、かつ、施設維持管理基準（別記第4）及び自主事業実施基準（別記第5）に規定する基準に適合するものとしなければならない。
 - 5 乙は、第2項の事業計画書（収支予算書を含む。）の内容を変更しようとするときは、あらかじめ、変更しようとする内容を示した書面を甲に提出して、その承認を得なければならない。

(事業報告)

- 第24条 乙は、次に掲げる事項（以下この条において「報告事項」という。）を日報として記録するとともに、毎月10日（その日が市の休日に当たるときは、その日後の市の休日でない日とする。）までに前月の管理業務に係る報告事項を記載した月次事業報告書（様式第5号）を甲に提出するものとする。
- (1) 管理業務の実施状況に関する事項

- (2) 管理施設の利用状況に関する事項
 - (3) 利用料金その他の収入の状況に関する事項
 - (4) 管理業務の実施に要する経費の支出の状況に関する事項
 - (5) 前各号に掲げる事項のほか、甲が指定する事項
- 2 乙は、毎事業年度終了後30日以内に、報告事項を記載した事業報告書(様式第6号)に管理業務に係る収支決算書(様式第7号)を添付して甲に提出するものとする。

(経理の区分)

- 第25条 乙は、管理業務の実施に係る経理については、その他の経理と区分し、別に勘定を設けて整理するものとし、指定管理料及び利用料金その他管理業務に係る収入を独立した管理口座で管理するものとする。
- 2 前項の区分は、当該区分したものを自主事業と自主事業以外の管理業務とに区分するものとする。
- 3 乙は、自主事業以外の管理業務の経理にあたっては、食事及び食材の提供業務に係る内容とその他の業務に係る内容とに区分するものとする。

(関係機関との連絡調整)

- 第26条 乙は、事業計画の策定及び管理業務の実施に当たっては、関係機関との連絡調整及び協議を緊密に行うものとする。

第4章 管理業務の実施

第1節 総則

(業務責任者の選任)

- 第27条 乙は、管理業務に従事する従業員の中から業務責任者を選任しなければならない。
- 2 乙は、業務責任者を選任したときは、速やかに甲に届け出なければならない。選任した業務責任者を変更したときも、同様とする。
- 3 業務責任者は、指定管理者としての業務内容を十分に理解し、及び管理業務の円滑な遂行に努めることとする。
- 4 業務責任者の職務は、次のとおりとする。
- (1) 管理施設の使用の許可に関すること。
 - (2) 管理施設の利用者等の安全対策に関すること。
 - (3) 甲との連絡調整に関すること。
 - (4) 管理業務の指導監督に関すること。

(職務代理者の選任)

- 第28条 乙は、業務責任者に事故があるとき又は欠けたときに業務責任者の職務を代理する者として、業務責任者の職務代理者を選任しなければならない。
- 2 乙は、職務代理者を選任したときは、速やかに甲に届け出なければならない。選任した職務代理者を変更したときも、同様とする。

(管理体制の構築)

- 第29条 前2条に定めるもののほか、乙は、利用者の利便の向上、事故の発生の予防、事故発生時の迅速かつ円滑な対応等が図られるよう管理業務に関し体系的な組織体制を構築するものとする。

(管理業務マニュアルの整備)

第30条 乙は、管理業務に従事する従業員が適切に管理業務に関する職務を実施することができるよう、指定期間の初日までに、管理業務に関するマニュアル（以下この条において「マニュアル」という。）を作成して、甲に届け出なければならない。マニュアルの内容を変更した場合についても、同様とする。

2 マニュアルは、関係法令等及び施設維持管理基準に適合するものでなければならない。

3 甲は、乙に対し、マニュアルについて必要な指導をすることができる。

第2節 使用許可業務

（遵守事項等）

第31条 乙は、使用許可業務の実施に当たっては、地方自治法並びに設置管理条例及び千葉市少年自然の家管理規則（平成22年千葉市規則第31号。以下「管理規則」という。）の規定に従い、適切にこれを行わなければならない。

2 乙は、使用許可業務の実施に当たっては、千葉市行政手続条例（平成7年千葉市条例第40号）及び千葉市聴聞及び弁明の機会の付与に関する規則（平成6年千葉市規則第57号）の規定を遵守しなければならない。

（審査基準等の作成等）

第32条 乙は、管理業務を開始する日までに、使用許可業務を実施するために必要な千葉市行政手続条例第5条第1項に規定する審査基準及び同条例第6条に規定する標準処理期間を定めて公にしておくとともに、これら（同条例第12条第1項に規定する処分基準を定めた場合にあっては、当該処分基準を含む。）を甲に届け出なければならない。これらの基準及び期間を変更した場合についても、同様とする。

（使用不許可処分等の際の報告）

第33条 乙は、設置管理条例第10条又は第11条又は第12条の規定により、管理施設を使用しようとする者に対し、使用の不許可、制限若しくは停止又は使用許可の取消しの処分をしたときは、遅滞なく甲に報告しなければならない。

第3節 維持管理業務

（監視の実施等）

第34条 乙は、管理施設の使用時間中、管理施設を監視して、事故発生の予防に努めるとともに、管理施設内の施設、設備等に異常を発見した場合は、直ちに適切な措置を講ずるものとする。

2 乙は、第16条に定めるもののほか、設備の保守その他の維持管理業務の遂行に必要な資格を有する者を確保するものとする。

（維持管理の実施）

第35条 乙は、事業計画書に記載する管理施設の維持管理に関する計画（以下この条において「維持管理計画」という。）の内容に従い、管理施設の点検、保守、修繕、清掃等の維持管理を実施するものとする。

2 乙が維持管理計画に記載されている管理施設の修繕を行う場合の費用負担、修繕後の所有権の帰属、修繕に係る費用の乙における会計上の処理について、甲及び乙は次に掲げるとおりとなることを確認するものとする。

(1) 費用負担については、募集関係書類に記載されたとおりとすること。

(2) 修繕後の施設・設備の所有権は市に帰属すること。

(3) 乙は当該修繕を受託業務として、その費用を適切に会計処理すること。

- 3 乙は、維持管理計画に記載されていない管理施設の修繕で費用の支出が見込まれるもの（以下「個別修繕」という。）を実施する必要がある場合は、その旨を速やかに甲に通知するものとする。
- 4 乙は、前項の通知をした日から10日（市の休日の日数は算入しない。）以内に、個別修繕計画書（様式第8号）に当該修繕に関する見積書を添えて甲に提出して、当該修繕の実施について甲と協議するものとする。
- 5 前項の場合において、甲及び乙は、個別修繕の内容、実施主体、費用の負担、当該修繕が資本的支出となる場合の資産計上の考え等について協議を行うものとし、別途個別修繕協定を締結した上で、甲又は乙が当該個別修繕を行うものとする。
- 6 前2項の規定にかかわらず、個別修繕に係る費用の額が1件につき100万円以内である場合は、乙は、第2項の通知をした後に自ら当該個別修繕を実施するものとする。ただし、甲が通知を受けたときに反対の意思を表示したときは、この限りでない。
- 7 乙は、前2項の個別修繕を実施したときは、当該個別修繕の結果について、これを完了した日から10日以内に、個別修繕実施報告書（様式第9号）を甲に提出して報告するものとする。
- 8 前各項に定めるもののほか、乙は、管理施設の機能の維持を図るため必要な措置を適時に講ずるものとする。

（費用負担の確認）

- 第36条 前条第1項の維持管理及び同条第6項の個別修繕の実施に要する費用は、指定管理料に含まれるものとし、乙は、甲に対して別途費用を請求することができないものとする。
- 2 前条第4項の規定により、甲がその費用を負担して個別修繕を行った結果、当該修繕に要した費用が100万円以内であったときは、甲は、当該費用を乙に求償することができる。
 - 3 前2項に規定するほか、乙の責めに帰すべき事由により生じた維持管理又は修繕に要する費用は、乙が負担する。

第4節 自主事業の実施に関する業務

（自主事業の実施）

- 第37条 乙は、管理施設の設置目的及び自主事業実施基準に適合する範囲内においてのみ、自主事業を行うことができるものとする。
- 2 乙は、当該事業年度の事業計画書に記載されていない自主事業を実施しようとする場合は、当該自主事業を実施しようとする日の30日前（市の休日の日数は算入しない。）までに、当該自主事業の具体的な実施計画を記載した個別自主事業実施計画書（様式第10号）を甲に提出して、その承認を得るものとする。

（許可の取得等）

- 第38条 乙は、自主事業を実施するために必要な場合には、地方自治法その他の関係法令等の定めるところに従い、自己の費用及び責任において所定の手続を行って、所要の許可等を取得し、及び維持するものとする。

（使用料等の納付）

- 第39条 乙は、自主事業の実施に当たり、地方自治法、設置管理条例、管理規則その他の関係法令等の定めるところに従い、自主事業の実施に伴う管理施設の利用料金を指定管理者としての乙に支払うものとする。

（費用負担）

- 第40条 自主事業の実施（第三者に行わせる場合を含む。）に要する費用（前条の使用料及び利用料金を含む。）は、全て乙の負担とし、指定管理料及び利用料金を当該費用に充ててはな

らない。

第5章 モニタリング

(モニタリングの実施)

第41条 甲及び乙は、管理業務が管理運営の基準等、事業計画書及びこの協定に定める基準に適合して実施されているかどうかを確認するため、この章に定めるところにより管理業務の実施状況の調査（以下「モニタリング」という。）を行うものとする。

(乙によるモニタリングの内容)

第42条 乙が行うモニタリングの内容は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 第24条第1項の規定により管理業務の実施状況に関して日報として記録すること。
- (2) 利用者へのアンケート調査の実施
- (3) 管理業務の実施状況に関する自己評価の実施

(利用者アンケート)

第43条 乙は、利用者の意見、要望等を把握し、及び管理業務に反映させるため、事業計画書に記載した実施計画で定めるところにより、全ての利用者を対象として管理業務の実施状況についてのアンケート調査を実施するものとする。

- 2 乙は、各月のアンケート調査の結果を集計して、集計したアンケート調査の結果及び当該結果についての乙の分析、評価等を記載したアンケート調査結果報告書を当該月の翌々月に提出する月次事業報告書に添付して、甲に提出するものとする。
- 3 前項の規定にかかわらず、利用者の属性や利用状況等を踏まえ、各月のアンケート調査の結果を集計する効果が低いと認められる場合は、甲乙協議の上、複数の月の調査結果をまとめて前項のアンケート調査結果報告書を作成することができる。
- 4 前3項に定めるもののほか、乙は、常に利用者の意見を聴取し、適切に対応するための体制を整備しなければならない。

(管理業務の実施状況に関する自己評価)

第44条 乙は、月次事業報告書及び事業報告書に、管理業務の実施状況に関する次に掲げる事項についての自己評価（達成の成否のほか、達成又は未達成の程度の段階評価を含むものとする。）の結果を記載するものとする。

- (1) 管理施設の維持管理の実施内容が施設維持管理基準に適合しているかどうか
- (2) 管理施設の維持管理の実施内容が事業計画書の管理施設の維持管理に関する計画の内容に適合しているかどうか
- (3) 自主事業の実施内容が自主事業実施基準に適合しているかどうか
- (4) 自主事業の実施内容が事業計画書の自主事業の実施に関する計画及び個別自主事業実施計画書の内容に適合しているかどうか
- (5) 前各号に掲げる事項のほか、管理業務の実施状況が管理運営の基準等及びこの協定に定める基準に適合しているかどうか

(甲によるモニタリング)

第45条 甲は、月次事業報告書及び事業報告書の内容を確認するほか、指定期間中、随時、乙に対して、管理業務の実施状況（経理の状況を含む。以下この条において同じ。）についての説明若しくは日報その他の管理業務に関する書類（経理に関する書類を含む。）の提出を求め、又はその職員に、管理施設において管理業務の実施状況若しくは当該書類を確認させ、若しくは利用者その他の関係者に質問させることができるものとし、乙は、正当な理由がある場合を除き、これに協力しなければならない。

- 2 甲は、前項に規定する管理業務の実施状況として確認する労働関係法令遵守状況の確認に係る業務について委託することができる。
- 3 第1項の規定（管理業務の実施状況として確認する労働関係法令遵守状況の確認に係る業務に関する部分に限る。）は、前項の規定による委託を受けたものが受託した業務を行う場合においても適用する。

（改善の指示等）

第46条 甲は、乙が管理運営の基準等、事業計画書若しくはこの協定に定める基準に従って管理業務を実施していないと認めるとき又は管理業務の適正を期するために必要があると認めるときは、乙に対し、理由を付して、必要な措置をとるべきことを勧告し、又は地方自治法第244条の2第10項に規定する指示をすることができる。

第6章 利用料金及び指定管理料

第1節 利用料金

第47条 管理施設の利用料金は、乙がその収入として収受する。

- 2 乙は、甲が別に定める日までに、設置管理条例第15条の規定により、甲の承認を得て利用料金の額を定めるものとする。
- 3 前項の規定により定めた利用料金の額は、指定期間中、甲が特に必要があると認める場合を除き、変更しないものとする。
- 4 乙は、管理規則第7条に規定する場合以外の場合であっても、特に必要があると認める場合は、利用料金を減免し、又は返還することができる。この場合において、甲は、乙に対し、その減免し、又は返還した額に相当する額の補填をしないものとする。
- 5 乙は、収受した利用料金の一切を記録するために帳簿を作成して、逐一記録するとともに、当該記録を管理業務に係る事業年度終了後5年間保存しなければならない。

第2節 指定管理料

（通則）

第48条 甲は、乙に指定管理料を支払うものとし、指定管理料の額は、事業年度ごとに、次の数式によって算出される金額を基本として、第3項の規定により別途締結する年度協定書において確定する額とする。

$X - Y$

この式において、X及びYは、それぞれ次の数値を表すものとする。

X 当該事業年度における管理業務（自主事業の実施に関する業務及びこれに付帯する業務を除く。）の実施に要する費用の額として当該事業年度の事業計画書に記載された見込額（以下「管理経費見込額」という。）

Y 当該事業年度における管理業務（自主事業の実施に関する業務及びこれに付帯する業務を除く。）の実施により収受し得るものとして当該事業年度の事業計画書に記載された、管理施設の利用料金の見込額及びその他収入の見込額

- 2 指定期間中の指定管理料の総額は、1, 341, 799, 000円（消費税及び地方消費税相当額を含む。）以内とする。
- 3 第1項の規定により算出される金額を確認し、及び各事業年度の指定管理料を確定するため、甲及び乙は、当該事業年度の4月1日に、別途年度協定書を締結するものとする。
- 4 管理経費見込額のうち当該事業年度に使用されなかった額がある場合で、その原因が乙の経営努力によるものでないことが明らかであるもの（以下「不用額」という。）があるときは、甲は、乙に当該不用額の返還を求めることができる。ただし、当該不用額が次に掲げるもので

ある場合は、この限りでない。

- (1) 乙がその危険を負担する事由により発生したものである場合
 - (2) 実施予定であった修繕について正当な理由により実施を延期したことで発生したと甲が認めるもの（以下「未実施修繕予定額」という。）である場合
- 5 前項の規定により発生した不用額のうち未実施修繕予定額については、発生した事業年度の翌年度以降における指定管理期間中の年度において、第1項に規定する指定管理料算出式におけるYとして計上するものとする。

（月次指定管理料）

第49条 指定管理料は、月ごとに支払うものとし、1月当たりの指定管理料（以下「月次指定管理料」という。）の額は、前条第3項の規定により確定した当該事業年度に係る指定管理料の額に12分の1を乗じて得た額とする。この場合において、当該得た額に係る端数の処理については、国等の債権債務等の金額の端数計算に関する法律（昭和25年法律第61号）第3条の規定に従い、年度協定書で定めるものとする。

（月次事業報告書の確認）

- 第50条 甲は、第24条第1項の規定により乙から月次事業報告書の提出があったときは、提出があった日から10日以内に、当該月次事業報告書に指摘事項があるかどうかの確認をし、その結果（指摘事項がある場合にあっては、その内容を含む。）を乙に通知するものとする。
- 2 乙は、甲から月次事業報告書に指摘事項がある旨の通知を受けたときは、通知を受けた日から5日以内に、次の各号のいずれかの措置をとらなければならない。
- (1) 指摘事項について甲に異議を申し立てること。
 - (2) 指摘事項を踏まえて補足、修正等をした月次事業報告書を甲に再提出すること。
- 3 前項第2号の規定により月次事業報告書が再提出された場合においては、当該再提出された月次事業報告書を第24条第1項の規定により提出された月次事業報告書とみなして、第1項の規定を適用する。
- 4 第2項第1号の規定により乙から異議申立てがあったときは、その取扱いについて甲乙誠実に協議の上、その結果に基づき、速やかに、第1項の規定により月次事業報告書に指摘事項がない旨を通知し、又は第2項第2号の規定により再提出するものとする。

（指定管理料の支払）

- 第51条 乙は、前条第1項の規定により月次事業報告書に指摘事項がない旨の通知を受けたときは、適法な請求書を甲に提出することにより当該月次指定管理料の支払を請求することができる。
- 2 甲は、前項の規定による請求があったときは、請求を受けた日から30日以内に請求に係る月次指定管理料を支払わなければならない。
- 3 甲がその責めに帰すべき事由により前条第1項に規定する期間内に同項の規定による通知をしないときは、当該期間を経過した日から通知をした日までの期間の日数は、前項の期間（以下「支払期間」という。）の日数から差し引くものとする。この場合において、当該遅延日数が支払期間の日数を超えるときは、支払期間は、遅延日数が支払期間の日数を超えた日において満了したものとみなす。
- 4 第49条及び前3項の規定にかかわらず、年度協定書に定めるところにより、甲は、指定管理料の一部又は全部を前金払又は概算払により支払うことができるものとする。

（遅延利息）

第52条 甲の責めに帰すべき事由により、月次指定管理料の支払が支払期間内に行われなかったときは、乙は、遅延日数に応じ、未受領金額に対し、政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）第8条第1項の規定に基づき財務大臣が決定する率であって

当該事業年度の4月1日において適用されるものを乗じて計算した金額（その額に100円未満の端数があるときは、これを切り捨てるものとする。）の遅延利息の支払を甲に請求することができる。ただし、計算した遅延利息の額が100円未満であるときは、この限りでない。

第7章 指定の取消し等

（指定の取消し及び管理業務の停止）

第53条 甲は、次の各号のいずれかに該当する場合は、地方自治法第244条の2第11項の規定により乙に対する指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができるものとする。

- (1) 甲が乙に対し、地方自治法第244条の2第10項の規定により相当な期間を定めて改善措置を講ずることを指示した場合において、当該期間を経過してもなお、当該指示に係る改善がなされないとき。
- (2) 乙が管理業務の遂行を放棄した場合
- (3) 乙の責めに帰すべき事由により、この協定上の乙の義務の履行が不能となった場合
- (4) 前3号に掲げる場合のほか、乙の責めに帰すべき事由により、乙がこの協定上の義務を履行しない場合で甲が相当な期間を設けて履行の催告を行ったときにおいて、当該期間を経過してもなお、当該義務の履行がなされないとき。
- (5) 甲に提出された報告書、請求書その他の書面の重要な事項に虚偽の記載があるとき等甲から指摘されるべき事項がある場合
- (6) 乙に係る破産手続開始、再生手続開始、更生手続開始又は特別清算開始のいずれかについて乙の取締役会でその申立等を決議した場合又はその申立等がされた場合
- (7) 乙が支払不能又は支払停止となった場合
- (8) 乙又は乙の役員が、暴力団、暴力団員等又は暴力団密接関係者である場合
- (9) 前各号に掲げる場合のほか、乙が指定管理者として管理業務を継続することが適当でないと認められる場合

2 乙は、指定管理者の指定が取り消された場合は、取消しの日までの期間に係る月次事業報告書、事業報告書その他この協定の規定により提出を要する報告書の一切を、速やかに甲に提出するほか、次章に規定する措置を講じるものとする。

（指定管理料の支払停止又は減額）

第54条 甲は、前条第1項各号のいずれかに該当する場合は、未払の指定管理料の支払を停止し、又は減額して支払うことができるものとする。

（違約金等）

第55条 乙は、第53条第1項各号のいずれかに該当することにより、指定管理者の指定を取り消されたときは、甲に対し、取消しの日属する事業年度の管理経費見込額の20パーセントに相当する額を違約金として、その請求を受けた日から30日以内に支払うものとする。

2 甲は、第53条第1項に規定する場合において、指定管理者の指定の取消し又は管理業務の停止により乙に生じた損害を賠償する責めに任じない。

第8章 指定期間の満了時等の措置

（原状回復等）

第56条 乙は、指定期間が満了したとき（指定が取り消されたときを含む。以下この章において同じ。）は、その費用及び責任において管理施設を原状に回復した上で甲又は甲の指定する者（以下「管理承継者」という。）に引き渡さなければならない。ただし、甲の承認を得たときにおける当該承認に係る部分については、この限りでない。

- 2 甲は、乙が正当な理由がなく管理施設を原状に回復しない場合は、乙に代わって管理施設を原状に回復するために必要な措置をとることができるものとする。この場合において、乙は、甲の当該措置について異議を申し出ることができず、及び当該措置に要した費用を負担しなければならない。

(業務等の引継ぎ)

第57条 乙は、指定期間が満了したとき以後に管理施設の管理が引き続き円滑に実施されるよう、甲の指示に従い、甲又は管理承継者に対して管理施設及び管理業務の引継ぎを行うものとする。

- 2 乙は、指定期間が満了したときは、速やかに、指定期間が満了したとき以後の管理施設の管理を引き続き円滑に実施するため、管理承継者に引き継ぐことが相当であると認められる文書であって、乙が作成した文書管理規程に定める保存期間が満了していない保有文書及び保存期間が満了した保有文書で廃棄をしていないものを、甲又は管理承継者に引き継がなければならない。
- 3 乙は、前2項の規定による引継ぎに要する費用を負担するものとする。
- 4 乙は、指定期間が満了したとき以後であっても、甲の求めがあったときは、第1項の引継ぎが完了するまでの間自らの費用及び責任において管理施設の必要最小限度の維持保全を行うものとする。

第9章 損害賠償

(甲の損害賠償義務)

第58条 甲は、その責めに帰すべき事由によるこの協定上の義務の不履行により乙に損害を与えたときは、その損害を賠償しなければならない。

(乙の損害賠償義務)

- 第59条 乙は、この協定上の義務の不履行により甲に損害を与えたときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、当該不履行が、甲の責めに帰すべき事由又は不可抗力若しくは法令の変更によるものである場合(第61条第1項又は第63条第1項に規定する措置をとったときに限る。)は、この限りでない。
- 2 前項の場合において、甲は、既に第55条の違約金を受領しているときは、当該損害額から受領した違約金の額を控除した額を、損害賠償として請求することができる。
 - 3 第1項に定める場合のほか、乙は、管理業務の遂行に付随関連して、管理施設の全部又は一部を滅失し又はき損することその他の行為によって何らかの損害を甲に被らせた場合は、その損害を賠償するものとする。

(第三者に与えた損害の負担)

- 第60条 乙は、管理業務の実施に当たって、又は管理業務に瑕疵があったことにより、利用者その他の第三者に損害を与えた場合は、その損害を賠償する責任を負うものとする。
- 2 前項の場合において、甲が当該第三者に対して損害の賠償をしたときは、乙は、甲に対し当該賠償額の補償をしなければならない。

第10章 法令の変更等があった場合の措置

(報告)

- 第61条 乙は、指定期間中に法令の変更が行われた場合又はその責めに帰すべき事由によらないで許認可等の効力が失われた場合は、次に掲げる事項を甲に報告するものとする。
- (1) 乙が受けることとなる影響

(2) 法令の変更又は許認可等の効力に関する事項の詳細

2 甲は、前項の規定による報告を受けたときは、この協定の変更その他の報告に係る事態への対応措置について、速やかに乙と協議するものとする。

(指定の取消し等)

第62条 前条の規定にかかわらず、指定期間中に法令の変更が行われた場合又は乙の責めに帰すべき事由によらないで許認可等の効力が失われた場合において、管理業務の継続が不能となったとき又は管理業務の継続に過分の費用を要するときは、甲は、乙と協議の上、地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は管理業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができるものとする。

2 甲は、前項の規定により指定を取り消し、又は管理業務の全部若しくは一部の停止を命じたときは、未払の指定管理料の支払を停止し、又は未払の指定管理料を減額して支払うことができるものとする。

第11章 不可抗力

(不可抗力)

第63条 甲又は乙は、不可抗力によりこの協定上の義務の履行が不能又は著しく困難となった場合は、直ちにその旨を相手方に通知するとともに、早急に応急措置をとり、不可抗力により生ずる損害が最小限となるよう努めるものとする。

2 甲及び乙は、不可抗力によりこの協定上の義務の履行が不能若しくは著しく困難となった場合又は管理施設に重大な損害を生じた場合は、この協定の変更その他の必要な措置について速やかに協議するものとする。

(指定の取消し等)

第64条 前条の規定にかかわらず、不可抗力により管理業務の継続が不能となった場合又は管理業務の継続に過分の費用を要する場合は、甲は、乙と協議の上、地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は管理業務の全部又は一部の停止を命ずることができるものとする。

2 甲は、前項の規定により指定を取り消し、又は管理業務の全部若しくは一部の停止を命じたときは、未払の指定管理料の支払を停止し、又は未払の指定管理料を減額して支払うことができるものとする。

第12章 雑則

(地位等の譲渡等の禁止)

第65条 乙は、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例（平成22年千葉市条例第7号。次項において「選定条例」という。）第5条第1項の規定による場合を除き、指定管理者の地位及び管理業務に関して生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、承継させ、又は担保の目的に供することができないものとする。

2 乙は、管理業務を実施するために自己の費用及び責任において管理施設に設備、備品等を設置する場合は、指定期間中、当該設備、備品等を第三者に譲渡し、貸借権その他の使用若しくは収益を目的とする権利を設定し、又は担保に供してはならない。ただし、選定条例第5条第1項の規定により当該指定管理者としての地位を承継した者に設備、備品等を譲渡する場合は、この限りでない。

(合併等の報告等)

第66条 乙は、合併、分割その他これらに類する行為（以下「合併等」という。）をしようと

するときは、あらかじめ書面にて合併等の内容、理由及び時期、合併等により乙が受けることとなる影響その他必要な事項を甲に通知しなければならない。

2 乙は、合併等をしたときは、速やかに、合併等の事実を証する書面を添えて、その旨を甲に報告しなければならない。

(秘密の保持)

第67条 甲及び乙は、互いに管理業務に関して知り得た相手方の秘密を相手方若しくは相手方の代理人以外の第三者に漏らし、又はこの協定の履行以外の目的に使用してはならない。ただし、関係法令等に基づき開示する場合は、この限りでない。

(情報の公表)

第68条 甲は、前条ただし書に規定する場合のほか、次の各号に掲げる書類等を公表することができるものとし、乙は、この公表について異議を申し出ることができないものとする。

- (1) 第12条の規定により乙が作成する情報の公開に関する規程
- (2) この協定書及び年度協定書
- (3) 提案書類のうち、指定期間に属する各年度における管理施設の管理に関する事業計画書及び収支予算書並びに乙の定款、規約その他これらに類する書類
- (4) 第23条第2項の規定により乙が作成し、甲が承認した事業計画書及び収支予算書
- (5) 第24条の規定により乙が作成し、甲に提出した月次事業報告書、事業報告書
- (6) 前各号に掲げるもののほか、乙がこの協定の規定により甲に対して報告した事項

(計算書類等の提出)

第69条 乙は、乙の事業年度終了後3か月以内に、適正な監査を受けた貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表及び事業報告並びにこれらの附属明細書を甲に提出するものとする。

(甲による債務の負担)

第70条 この協定の締結後に甲がこの協定の定めるところに従って新たに債務を負担する場合は、甲は適用のある法令及び条例に定める手続に従って当該債務を履行し、これを支払えば足りるものとする。

(利益の還元)

第71条 乙は、毎事業年度末において、剰余金（当該事業年度における自主事業の実施により得られる収入（以下「自主事業収入額」という。）を含む一切の収入額（以下「総収入額」という。）が当該事業年度における自主事業の実施に係る支出額（以下「自主事業支出額」という。）を含む一切の支出額に未実施修繕予定額を加算した額（以下「総支出額」という。）を超える場合におけるその超える部分の金額をいう。以下同じ。）が生じ、剰余金が総収入額の10パーセントに当たる額を超える場合には、剰余金と総収入額の10パーセントに当たる額の差額の2分の1に相当する額を、甲に還元するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、当該事業年度における自主事業収入額が自主事業支出額を下回る場合は、総収入額から自主事業収入額を減じて得られる額が総支出額から自主事業支出額を減じて得られる額を超える額を前項における剰余金とみなし、かつ、前項の「総収入額の10パーセント」を「総収入額から自主事業収入額を減じて得られる額の10パーセント」に読み替えて、前項の規定を適用するものとする。

3 前2項の規定による還元の方法については、年度協定書において定めるものとする。

(事業年度等)

第72条 管理業務に係る事業年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

2 この協定における期間の定めについては、この協定に別段の定めがある場合を除き、民法（明治29年法律第89号）及び商法（明治32年法律第48号）の定めるところによる。

（通知等の様式等）

第73条 この協定に関する甲乙間の請求、通知、報告、申出、承諾、解除等は、この協定に別段の定めがある場合を除き、書面により行うものとする。

2 乙がこの協定の定めるところに従い甲に提出した請求書、通知書、計画書、報告書その他の書面及び図面（電磁的記録によるものを含む。）の著作権のうち乙が有するものについては、甲への提出と同時に甲に移転されるものとし、乙は、その著作権者人格権についても、それが甲に対して主張、行使等がされないように責任をもって措置するものとする。

（解釈）

第74条 甲がこの協定の定めるところに従って書類の受領、通知若しくは立会いを行い、又は説明若しくは報告を求め、若しくは受けたことをもって、甲が乙の責任において行うべき管理業務の全部又は一部について責任を負担するものと解釈してはならない。

（裁判管轄）

第75条 この協定に関連する紛争については、千葉地方裁判所を第一審の専属管轄裁判所とする。

（協定の費用）

第76条 この協定の締結に要する費用は、乙の負担とする。

（疑義等の決定）

第77条 この協定に定める事項に関し疑義を生じた事項又はこの協定に定めのない事項については、甲乙協議の上、定めるものとする。

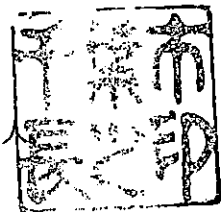
この協定の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印の上各自その1通を保有する。

令和2年1月29日

甲 千葉市中央区千葉港1番1号

千葉市

千葉市長 熊谷俊



乙 千葉市中央区富士見二丁目5番15号

千葉YMCA・伊藤忠UCグループ
代表企業 一般財団法人千葉YMCA

代表理事 廣田光



(別記第1)

管理施設

名 称	千葉県少年自然の家
所 在 地	千葉県長生郡長柄町針ヶ谷字中野1591番地40
敷地面積	約148,542㎡
延床面積	14,671.20㎡
施設構造	RC造(ログハウス棟及び野外炊飯場以外)、木造(ログハウス棟、野外炊飯場)

(別記第2)

損害保険の種類及び内容

保 険

甲は本施設に関し、(公社)全国市有物件災害共済会建物総合損害共済保険に加入している。

(対象：火災・落雷・風災・水災による建物被害)

乙は、その分担するリスクに応じ、適切に保険に加入すること。

(別記第3)

管理業務基本計画

1 管理業務に係る基本的な順守事項

乙は、指定期間における管理業務の実施にあたっては、千葉市少年自然の家設置管理条例及び千葉市少年自然の家管理規則のほか、法令、条例、規則その他甲の定めるところに従わなければならない。

また、公平な利用を確保することができるよう、特定の団体（乙を含む。）や個人に有利又は不利になる管理運営を行わないよう特に留意しなければならない。

2 施設の使用等に係る業務

次に掲げる業務を行う。

- (1) 利用受付に係る業務
- (2) 使用の許可に係る業務
- (3) 利用料金の減免に係る業務
- (4) その他の業務

3 千葉市少年自然の家設置管理条例第2条に掲げる事業の実施に係る業務

次に掲げる業務を行う。

- (1) 宿泊を伴う集団生活に係る業務
- (2) 自然観察その他の自然に親しむ活動に係る業務
- (3) 環境に関する学習に係る業務
- (4) 野外活動、体育及びレクリエーション活動に係る業務
- (5) その他少年の健全な育成を図るとともに、市民に自然の中での学習及び相互交流の場を提供するために必要な業務

4 維持管理業務

次に掲げる業務を行う。

- (1) 建築物維持管理業務
- (2) 建築設備維持管理業務
- (3) 備品・什器・リース物件等調達・設置及び維持管理業務
- (4) 外構等維持管理業務
- (5) 清掃業務
- (6) 環境衛生管理業務
- (7) 警備業務
- (8) その他管理運営に必要な業務

5 経営管理業務

次に掲げる業務を行う。

- (1) 管理業務に係る経理業務
- (2) 事業計画書の作成業務
- (3) 事業報告書の作成業務
- (4) モニタリング・自己評価に係る業務
- (5) 関係機関との連絡調整業務
- (6) 指定期間終了時の引継業務

(7) その他の業務

6 その他

災害の発生時には、甲と長柄町が締結した「災害時における避難所等施設利用に関する協定書」に基づき、長柄町は管理施設を避難所として開設できるため、甲及び長柄町と適宜情報交換、必要な連絡・調整を行うこと。

(別記第4)

施設維持管理基準

1 維持管理業務の基本方針

乙は、管理運営の基準のほか、「建築保全業務共通仕様書」(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)を参考に、業務を履行すること。また、以下を踏まえて維持管理業務を遂行し、利用者の利便性・快適性の確保に努めること。

- (1) 関係法令等を遵守すること。
- (2) 施設的环境を安全、快適かつ衛生的に保ち、利用者の健康被害を未然に防止すること。
- (3) 施設が有する機能及び性能等を保つこと。
- (4) 合理的かつ効率的な維持管理の実施に努めること。
- (5) 物理的劣化等による危険・障害等の発見・点検に努めること。
- (6) 予防保全に努めること。
- (7) 環境負荷を抑制し、環境汚染等の発生防止に努めるとともに、省資源、省エネルギーに努めること。

2 業務の対象範囲

- (1) 建築物維持管理業務
- (2) 建築設備維持管理業務
- (3) 備品・什器・リース物件等調達・設置及び維持管理業務
- (4) 外構等維持管理業務
- (5) 清掃業務
- (6) 環境衛生管理業務
- (7) 警備業務
- (8) その他管理運営に必要な業務

3 建築物維持管理業務

(1) 業務の対象範囲

管理区域の建築物の屋根(陸屋根、手摺、トップライト等含む)、ガラス面、建具、外壁・内壁(柱含む)、床、天井、階段、建物各部・据付け家具等の塗装及び仕上げ

(2) 建築物維持管理の基準

- ア 建築物に対して、関連法令等の定めや「建築保全業務共通仕様書」を参考に、日常点検、定期点検、法定点検(建築基準法第12条)を実施すること。
- イ 点検にあたっては、天井・外壁の雨漏り・劣化、床・手摺等の劣化・損傷など、利用者の安全性、快適性に配慮した点検を行うこと。特に、ログハウスゾーンの木造建築物の腐朽には注意すること。
- ウ 建築物の仕上げ材等に関しては、結露やカビの発生防止、開閉・施錠装置、自動扉等の正常な作動、床仕上げの清掃など、日常的な保守を行うこと。
- エ 建築物の不具合を発見した際は、速やかに甲に報告すること。
- オ 劣化診断や劣化判定及び修繕が必要とされる不具合については、甲と協議の上、劣化等の判断、修繕の決定を行うこと。
- カ 乙の責に帰すべき事由に関する建築物の更新費用は、乙の負担とする。

4 建築設備維持管理業務

(1) 業務の対象範囲

管理区域内の電気設備、給排水衛生設備、空調設備、厨房設備、防災設備等の建築設備、据付家具等の備品等、施設全般の設備

(2) 建築設備維持管理の基準

建築設備に対して、関連法令等の定めを遵守するとともに、「建築保全業務共通仕様書」を参考にして、適切な維持管理業務計画を作成の上、運転監視、日常点検、定期点検、保守等を実施すること。

ア 運転監視業務

設備の適正な運用を図るために行う運転及び監視並びにこれに関連する電力、用水、燃料等の需給状態を管理すること。また、設備に応じて、適切な運転記録をとること。

イ 日常点検及び保守業務

日常の機器運転管理、点検、保守を行うこと。また、点検及び正常に機能しない際の対応等について、適切に記録を残すこと。

ウ 法定点検（定期点検含む）及び保守業務

各設備の関連法令の定めにより、点検を実施すること。また、法令に規定のない場合でも、設備の初期性能・機能保持のため、定期的に運転中の機器を停止し、外観点検、機能点検、機器動作特性試験、整備業務を行うこと。

その際に、必要な消耗品の保守・更新についても、乙の負担により随時行うこと。また、点検及び正常に機能しない際の対応等について、適切に記録を残すこと。

エ 自家用電気工作物の保安業務

(ア) 乙は、管理施設の自家用電気工作物について、維持管理の主体として電気事業法第39条第1項の義務を果たすものとする。

(イ) 電気事業法に基づく電気主任技術者は乙が選任し、管理施設に常勤、若しくは外部選任により配置すること。また、乙は管理施設の自家用電気工作物の保安に関する以下の業務を行うこと。

- ・保安規程の届出
- ・報告徴収の対応
- ・立入検査の対応
- ・事故報告

(ウ) 甲及び乙は、自家用電気工作物の工事、維持及び運用の保安を確保するにあたり、電気主任技術者として選任される者の意見を尊重することとする。

(エ) 電気主任技術者として選任される者は、自家用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督の職務を誠実にを行うこととする。また、自家用電気工作物の工事、維持及び運用に従事する者は、電気主任技術者として選任される者がその保安のためにする指示に従うこととする。

オ 設備の維持管理・運用に伴って必要な手続きを遺漏なく行うとともに、特定の資格や知識を持つ専門員の配置が必要であれば、適切に配置すること。

カ 建築設備の不具合を発見した際には、速やかに甲に報告すること。

キ 劣化診断や劣化判定及び修繕が必要とされる不具合については、甲と協議の上、劣化等の判断、修繕の決定を行うこと。

ク 乙の責に帰すべき事由による建築設備の更新費用は、乙の負担とする。

ケ 法令対応が必要な建築設備の定期点検などの費用は、乙が負担するものとし、法令点検等の対応等は原則として乙が対応すること。

5 備品・什器・リース物件等調達・設置及び維持管理業務

(1) 業務の対象範囲

本施設の配備されている甲所有の備品・什器・リース物件（以下「備品等」という。）及びそれ以外で乙が管理運営上必要と判断する備品等

(2) 備品等維持管理の基準

乙は、備品等について日常点検、定期点検、日常の清掃等を行い、また機械器具にあたっては保守等を実施すること。点検にあたっては、備品等の劣化・損傷など、老朽化や利用者の安全性、快適性に配慮した点検を行うこと。

備品等の不具合を発見した際は、甲と協議の上、劣化等の判断、修繕の決定を行うこと。

(3) 備品台帳

乙は、備品管理にあたり、備品台帳を整備すること。

備品台帳は、甲所有の備品等と乙所有の備品等とに区分すること。甲所有の備品等については甲が貸与する備品台帳にて管理することとし、乙所有の備品等は、乙が作成する備品台帳にて管理すること。

備品台帳には、備品等の品名、規格、金額（単価）、数量、購入年月日、耐用年数及び所有者並びに保険、公租公課等を必ず記載すること。

6 外構等維持管理業務

(1) 業務の対象範囲

敷地内の外構施設、工作物及び植栽

外構施設：外構設備（門扉、手摺り、フェンス、ベンチ類、屋外消火栓、U字溝等）

敷地地盤（各種外部舗装床、縁石等）

地中設備（埋設配管、側溝、マンホール、排水枡、暗渠等）

工作物：各種サイン、フラッグポール、外灯、駐車場、冷却塔

(2) 外構等維持管理の基準

ア 外構施設、工作物

関係法令等の定めや「建築保全業務共通仕様書」を参考に、日常点検、定期点検、日常の清掃等を実施すること。点検にあたっては、劣化・損傷など、老朽化や利用者の安全性、快適性に配慮して行うこと。

日常の清掃にあたっては、目に見える外構施設の水拭き、掃き掃除、側溝掃除等を行い、美観の形成に努めること。

不具合を発見した際には、速やかに甲へ報告すること。

劣化診断や劣化判定及び修繕が必要とされる不具合については、甲と協議の上、劣化等の判断、修繕の決定を行うこと。

乙の責に帰すべき事由に関する外構施設、工作物の更新費用は、乙の負担とする。

イ 植栽

植栽の維持管理にあたっては、別添資料「千葉市公園緑地維持標準仕様書」に従い、植物の種類・形状・生育状況等に応じ、適切な方法により維持管理を行うこと。

使用薬剤、肥料等は、環境及び安全性に配慮して選定すること。特に薬剤散布の際は、農薬取締法等その他関係法令、「千葉市の施設等における農薬・殺虫剤等薬物の適正使用に係る指針」、「公園・街路樹等病害虫・雑草管理マニュアル」等を遵守するとともに、薬剤の使用削減を図ること。

施肥、灌水及び病害虫の防除等を行い、植物を常に良好な状態に保つこと。また、剪定、刈込及び除草等を適宜行い、利用者及び通行者等の安全の確保及び美観を保つこと。

7 清掃業務

(1) 業務の対象範囲

敷地内の建築物及び外構

(2) 清掃業務の基準

「建築保全業務共通仕様書」を参考に実施すること。

ア 利用者による清掃

施設内諸室の利用・貸出にあたっては、利用者に対し、使用後の簡易清掃の実施や忘れ物の点検を促すこと。特に、宿泊棟宿泊室及びログハウスについては、利用者が清掃

を行うことを周知徹底すること。

イ 日常清掃

乙は、本施設内における建築物、備品等を常に清潔な状態に保つこと。清掃回数等の条件は、利用頻度に応じて乙が適切に設定すること。宿泊棟宿泊室、ログハウス、食堂、浴場については、特に留意して清掃を行うこと。

また、消耗品は常に補充された状態にすること。なお、主催事業等で施設が利用される場合は、原則として主催者が本施設内外（外構施設及び駐車場を含む）で発生したゴミ等を処理するとともに、使用した諸室等について簡易的に清掃・整備を行うこと。

ウ 定期清掃

乙は、日常清掃では実施しにくい以下に挙げる清掃について利用者等に不快感を与えないよう、必要に応じて定期清掃を実施すること。

エ 特別清掃

乙は、高所での作業や利用者制限等を伴う清掃については、既定の回数以上、特別清掃を実施すること。また、特に汚れが目立つ箇所の清掃を重点的に行うこと。

オ その他

日常清掃、定期清掃、特別清掃のほかにも、利用者等に不快感を与えないよう、必要に応じて清掃を実施し、施設の良好な環境衛生、美観の維持に努めること。

8 環境衛生管理業務

(1) 業務の対象範囲

施設内における一般諸室、空調・給排水設備等とし、清掃及びゴミ処理、害虫駆除清掃を含む。

(2) 環境衛生管理業務の基準

乙は、建築物における衛生的環境の確保に関する法律、労働安全衛生法、水道法、水質汚濁防止法等の関係法令に基づき、清掃及びゴミ処理を含む施設の環境衛生管理に努めること。なお、植栽の剪定等で発生した草、枯れ葉、枯木等は適切に処分すること。

また、環境衛生管理技術者を設置し、年間の管理計画及び各月の管理計画を作成のうえ業務を行うほか、実施報告書、測定・検査・調査等の記録や評価に関する書類を作成すること。

9 警備業務

(1) 業務の対象範囲

敷地内の建築物、駐車場の警備業務

(2) 警備業務の基準

乙は、本施設の防犯、防火及び防災に万全を期し、利用者が安心して使用できる環境の確保のために警備業務を行うこと。

業務にあたっては、警備業法、消防法、労働安全衛生法等関係法令及び監督官庁の指示を遵守すること。

10 修繕

(1) 基本的事項

修繕の実施に関しては、1件あたり100万円以下の修繕は乙の負担とし、その金額を超える場合には甲と乙が協議の上それぞれの負担を決定するものとする。協議が整わないときは、甲が具体的な負担割合を定めて乙に通知するものとし、乙は当該通知の内容に従うこと。

ただし、乙の責による劣化、破損等の修繕は、乙の負担とする。なお、乙が甲の所有物を修繕した場合、その修繕方法及び修繕費用に関わらず、所有権は継続して甲に帰属するものとする。

(2) 修繕の取扱い

乙が修繕を行う範囲は、本施設の建築物及び建築設備並びに敷地内、駐車場及び本施設に配備されている備品等とする。

本項に記載のない状況・状態が発生した場合、または疑義が生じた場合には、乙は甲と協議の上、誠意を持って適切な対応、対処にあたること。

※小規模修繕：技術的内容が簡易かつ履行の確保が容易な施設等の修繕で、機能回復を目的として執行されるもののうち、予定価格が100万円以下のもの。

(3) 計画修繕について

表1に記載の内容については、(1) 基本的事項の記載に関わらず乙が修繕を実施する。

各修繕の実施時期は、原則、表1に記載のとおりとするが、利用状況や施設・設備の状態を勘案し、その他の時期に実施することが適当であると考えられる場合は、乙は甲に実施時期変更の協議を申出ることができる。甲は、乙からの申出があった場合は速やかに協議に応じることとし、計画修繕が適切に実施できるよう甲乙ともに努めなければならない。

表 1

建築物修繕計画

修繕箇所	修繕内容	R2	R3	R4	R5	R6
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
施設内外部建具	鉄扉塗装					○
ログハウス(ヒノキ棟)	デッキ改修	○	○			
ログハウス(アカマツ棟)	デッキ改修	○	○	○		
キャンプセンター棟デッキ	左側階段桁改修	○				
渡廊下柱	塗装	○				
あゆみ橋欄干	塗装		○			
ログハウス全体	年次点検後補修	○	○	○	○	○

建築設備修繕計画

設置場所	修繕内容		R2	R3	R4	R5	R6
			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
リフレッシュセンター棟	発電機設備 ディーゼル発電機	オーバーホール(1台)					○
リフレッシュセンター棟	給湯用真空ボイラー	熱交換器関係等の修理・交換(2台)	○				
リフレッシュセンター棟	浴槽ろ過装置	濾過材やポンプ等の修理・交換(3台)	○				
リフレッシュセンター棟	冷温水発生機	ポンプ類・パラジウムセル・各種センサー等の修理・交換(2台)		○			○
リフレッシュセンター棟	密閉型冷却塔	送風機・モーター各軸受、散水ポンプ等の修理・交換(2台)		○			○
リフレッシュセンター棟	量水器	メーター交換(9台)	○				
浄化槽ポンプ室	浄化設備 中空糸幕フィルター	フィルター交換(1設備)				○	

(別記第5)

自主事業実施基準

1 講座・イベントの企画、誘致業務

乙は、本施設を利用して、本施設の設置目的に適合する範囲において、自らの企画による講座等の企画・誘致を行い、自らの収入とすることができる。講座等の企画・誘致に係る費用は、すべて乙の負担とし、甲からの指定管理料を充ててはならない。

講座等の企画・誘致の内容については、各年度の事業計画の作成時に甲と協議を行い、甲の承認を得ること。実際の実施にあたり、当該年度の事業計画から変更が生じる場合は、甲と調整を行い、確認を得ること。

乙が講座等を実施する場合、管理を行っている施設を利用する場合でも所定の利用料金を負担するものとする。

なお、講座等の企画・誘致にあたっては、以下に示す条件を満たすこと。

- (1) 本施設の設置目的に適合し、かつ受託事業に含まれていないものであること。
- (2) 甲が本施設の使用を求める日程以外であること。
- (3) 甲が要求する運営サービスに支障をきたさない使用であること。
- (4) 施設利用者の需要を圧迫しないと認められる使用であること。
- (5) 公序良俗に反しない使用であること。
- (6) 関連する法規を遵守し、施設の特徴等に沿った内容の使用であること。

2 地域との連携

施設の運営を通じた地域の活性化及び連携に関して、積極的に取り組むこと。特に、長柄町の農業関係者とは積極的に連携を図ること。

指定管理者個人情報取扱特記事項

(基本的事項)

第1 乙は、個人情報の保護の重要性を認識し、公の施設の管理に関する事務を処理するための個人情報の取扱いに当たっては、千葉市個人情報保護条例(平成17年千葉市条例第5号。以下「条例」という。)その他個人情報の保護に関する法令等を遵守し、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報を適正に取り扱わなければならない。

(適正な管理)

第2 乙は、公の施設の管理に関する事務に係る個人情報の漏えい、滅失、改ざん及びき損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 乙は、公の施設の管理に関する事務に係る個人情報を適正に管理させるため、公の施設の管理に関する事務に係る個人情報を取り扱う場合に順守すべき事項、関係法令等に基づく罰則の内容及び民事上の責任その他事務の適切な履行のために必要な事項に関する研修等を、その必要に応じて行わなければならない。

(複写等の禁止)

第3 乙は、甲の指示又は承諾があるときを除き、公の施設の管理に関して甲から貸与された個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

(作業場所の指定等)

第4 乙は、公の施設の管理に関する事務の処理のうち個人情報を取り扱うものについては、当該公の施設内において行うものとする。ただし、当該公の施設外で事務を処理することにつき、当該事務を処理しようとする場所における個人情報の適正管理の実施その他の措置について、あらかじめ甲に届け出て、甲の承諾を得た場合には、当該作業場所において事務を処理することができる。

2 乙は、公の施設内において当該公の施設の管理に関する事務を処理するため個人情報を取り扱うときは、従事者に対して、その身分を証明する書類を常時携帯させなければならない。

3 乙は、公の施設の管理に関する事務を処理するために取り扱う個人情報を、当該公の施設内又は第1項ただし書の規定により甲の承諾を受けた場所から持ち出してはならない。

(資料等の運搬)

第5 乙は、従事者に対し、個人情報が記録された資料等の運搬中に資料等から離れないこと、電磁的記録の資料等は暗号化等個人情報の漏えい防止対策を十分に講じた上で運搬することその他安全確保のために必要な指示を行わなければならない。

(資料等の返還等)

第6 乙は、公の施設の管理に関する事務を処理するために甲から貸与され、又は乙が収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等を、指定期間終了後直ちに甲に返還し、又は引き渡すものとし、甲の承諾を得て行なった複写又は複製物については、廃棄又は消去しなければならない。ただし、甲が別に指示したときは、当該方法によるものとする。

(指定の取消及び損害賠償)

第7 甲は、次のいずれかに該当するときには、指定の取消及び損害賠償の請求をすることができるものとする。

(1) 公の施設の管理に関する事務を処理するために乙が取り扱う個人情報について、乙の責めに帰すべき事由により甲又は第三者に損害を与えたとき

(2) 前号に掲げる場合のほか、乙がこの指定管理者個人情報取扱特記事項に違反していると認めたととき

＜条例における罰則関係規定の抜粋＞

第11条 実施機関は、個人情報を取り扱う事務を遂行するに当たっては、個人情報の保護に関し、次に掲げる事項について必要な措置を講じなければならない。

- (1) 個人情報を正確かつ最新の状態に保つこと。
- (2) 個人情報の漏えい、滅失、改ざん及びき損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じること。
- (3) 個人情報の保護に関する責任体制を明確にすること。
- (4) 保有する必要がなくなった個人情報については、歴史的資料として保存する必要があるものを除き、確実に、かつ、速やかに廃棄し、又は消去すること。

2 実施機関の職員又は職員であった者は、職務上知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。

3 労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律（昭和60年法律第88号）第26条第1項に規定する労働者派遣契約に基づき実施機関に派遣された者（以下「派遣労働者」という。）又は派遣労働者であった者は、当該労働者派遣契約に基づく業務に関して知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。

第12条 実施機関は、個人情報を取り扱う事務の委託（指定管理者（地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項に規定する指定管理者をいう。）に公の施設（同法第244条第1項に規定する公の施設をいう。）の管理を行わせ、又は公営住宅法（昭和26年法律第193号）第47条第1項の規定により千葉市住宅供給公社に本市の設置する公営住宅若しくは共同施設の管理を行わせることを含む。以下同じ。）をしようとするときは、当該個人情報の保護に関し必要な措置を講じなければならない。

2 前項の規定は、同項の委託を受けたものが、当該実施機関の承諾を得て、受託した業務を再委託する場合について準用する。

第12条の2 第11条第1項の規定は、前条第1項の委託を受けたもの（そのものから再委託を受けたものを含む。第58条第2項において同じ。）が受託した業務（以下「受託業務」という。）を行う場合について準用する。

2 第11条第2項の規定は、受託業務に従事している者又は従事していた者について準用する。

第57条 実施機関の職員若しくは職員であった者、派遣労働者若しくは派遣労働者であったもの又は受託業務に従事している者若しくはしていた者が、正当な理由がないのに、公文書であって、個人の秘密に属する事項が記録された個人情報ファイルであるもの（これらの全部又は一部を複製し、又は加工したものを含む。）を提供したときは、2年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処する。

第58条 前条に規定する者が、その業務に関して知り得た公文書（その全部又は一部を複製し、又は加工したものを含む。）に記録された個人情報を自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で提供し、又は盗用したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

2 前条及び前項の規定において、受託業務に従事している者が当該受託業務に関して作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録であって、当該受託業務に従事している者が組織的に用いるものとして、第12条第1項の委託を受けたものが保有しているものは、公文書とみなす。

第59条 実施機関の職員がその職権を濫用して、専らその職務の用以外の用に供する目的で個人の秘密に属する事項が記録された文書、図画又は電磁的記録を収集したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

第60条 前3条の規定は、千葉市外においてこれらの条の罪を犯した全ての者にも適用する。

第61条 法人（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものを含む。以下この項にお

いて同じ。)の代表者若しくは管理人又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従事者が、その法人又は人の業務に関して第 57 条又は第 58 条の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対しても、各本条の罰金刑を科する。

2 法人でない団体について前項の規定の適用がある場合には、その代表者又は管理人が、その訴訟行為につき法人でない団体を代表するほか、法人を被疑者とする場合の刑事訴訟に関する法律の規定を準用する。

第 62 条 偽りその他の不正の手段により、開示決定に基づく公文書に記録された個人情報の開示を受けた者は、5 万円以下の過料に処する。

様式第1号

年 月 日

(あて先) 千 葉 市 長

所在地

名 称
代表者氏名

印

次年度事業計画書

このことについて、千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書第23条第1項の規定により、別紙のとおり次年度事業計画書を提出します。

記

- 1 管理業務の実施体制
- 2 設置管理条例第2条に掲げる事業の実施に関する計画
- 3 管理施設の維持管理に関する計画
- 4 自主事業の実施に関する計画
- 5 第43条第2号に規定する利用者へのアンケート調査の実施内容その他事業評価（モニタリング）の実施に関する計画
- 6 その他

様式第2号

年 月 日

(あて先) 千 葉 市 長

所在地

名 称
代表者氏名

次年度事業計画に係る収支予算見積書

このことについて、千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書第23条第1項の規定により、別紙のとおり収支予算見積書を提出します。

記

- 1 管理業務に係る収支予算見積書
- 2 自主事業に係る収支予算見積書

(あて先) 千 葉 市 長

所在地

名 称
代表者氏名

〇〇年度事業計画書

このことについて、千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書第23条第2項の規定により、別紙のとおり事業計画書を提出します。

記

- 1 管理業務の実施体制
- 2 設置管理条例第2条に掲げる事業の実施に関する計画
- 3 管理施設の維持管理に関する計画
- 4 自主事業の実施に関する計画
- 5 第43条第2号に規定する利用者へのアンケート調査の実施内容その他事業評価（モニタリング）の実施に関する計画
- 6 その他

(あて先) 千 葉 市 長

所在地

名 称
代表者氏名

〇〇年度収支予算書

このことについて、千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書第23条第2項の規定により、別紙のとおり収支予算書を提出します。

記

- 1 管理業務に係る収支予算書
- 2 自主事業に係る収支予算書

(あて先) 千 葉 市 長

所在地

名 称
代表者氏名

月次事業報告書

このことについて、千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書第24条第1項の規定により、別紙のとおり 年 月分月次事業報告書を提出します。

記

- 1 管理施設の利用実績（利用者数、専用使用状況等）
- 2 管理業務の実施状況
 - (1) 設置管理条例第2条に掲げる事業
 - (2) 維持管理業務
 - (3) その他
- 3 管理業務の実施に係る経費の収支の状況
- 4 事業評価（モニタリング）の状況
- 5 再委託の状況
- 6 自主事業の実施状況
- 7 その他

(あて先) 千 葉 市 長

所在地

名 称
代表者氏名

年度事業報告書

このことについて、千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書第24条第2項の規定により、別紙のとおり 年度の年度事業報告書を提出します。

記

- 1 管理施設の利用実績（利用者数、専用使用状況等）
- 2 管理業務の実施状況
 - (1) 設置管理条例第2条に掲げる事業
 - (2) 維持管理業務
 - (3) その他
- 3 管理業務の実施に係る経費の収支の状況
- 4 事業評価（モニタリング）の状況
- 5 再委託の状況
- 6 自主事業の実施状況
- 7 その他

様式第7号

年 月 日

(あて先) 千 葉 市 長

所在地

名 称
代表者氏名

収支決算書

このことについて、千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書第24条第2項の規定により、別紙のとおり 年度の収支決算書を提出します。

記

- 1 管理業務に係る収支決算書
- 2 自主事業に係る収支決算書

(あて先) 千 葉 市 長

所在地

名 称
代表者氏名

個別修繕計画書

このことについて、千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書第35条第3項の規定により、下記のとおり提出します。

記

- 1 修繕箇所
- 2 修繕理由
- 3 修繕内容
 - (1) 施工期間
 - (2) 施工方法
- 4 修繕実施中に必要な措置
 - (1) 安全対策
 - (2) 利用者への周知方法等
- 5 添付書類
 - (1) 見積書
 - (2) 現況写真
 - (3) 図面等

(あて先) 千 葉 市 長

所在地

名 称
代表者氏名

個別修繕実施報告書

このことについて、千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書第35条第6項の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 修繕箇所
- 2 修繕実施内容
 - (1) 施工期間
 - (2) 施工業者
 - (3) 施工方法
 - (4) 施工状況
- 3 修繕実施中に行った措置
 - (1) 安全対策
 - (2) 利用者への周知方法等
- 4 添付書類
 - (1) 竣工写真
 - (2) 完成図等

様式第10号

年 月 日

(あて先) 千 葉 市 長

所在地

名 称
代表者氏名

個別自主事業実施計画書

このことについて、千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書第37条第2項の規定により、別紙のとおり個別自主事業実施計画書を提出します。

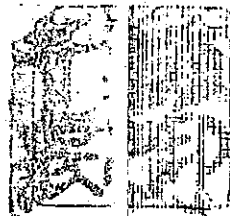
記

- 1 個別自主事業実施計画書
- 2 個別自主事業経費見積書

(あて先) 千 葉 市 長

所在地

名 称
代表者氏名



個別自主事業実施計画書

このことについて、千葉市少年自然の家の管理に関する基本協定書第37条第2項の規定により、別紙のとおり個別自主事業実施計画書を提出します。

記

- 1 個別自主事業実施計画書
- 2 個別自主事業経費見積書

